

《中学校の部》

「高齢者体験をして」

有田市立初島中学校 2年

中田 なかつた 奈央 なのお さん

七月十二日の五・六時間目に、有田市社会福祉協議会の人達が来て、高齢者の疑似体験を行った。

まず車イスに乗った。車イスに乗るのは初めてだったからドキドキした。私が乗って、友達に押ししてもらった。段をこえるとき、車イスをかたむけるから、すごくこわかった。でも、これは相手を信頼して乗らないとこわくなる。だから友達を信じて乗った。段を一つこえるだけなのに、すごくしんどかった。次に自分で進んだ。クネクネの道やせまい道を通った。カーブするときが難しかった。少ししかやってないのに、すごくつかれた。車イスでマラソンをしたり、スポーツをやっている人はとてもすごいと思う。

次に高齢者の生活の一部を体験した。手足におもりをつけて、こしを曲げるひもをつけた。そうすると、体が重くなり、立つのもしんどかった。白内障に見えるゴーグルと、耳が聞こえにくくなるようにヘッドホンをつけた。つえをつかないと歩けないし、話す相手の顔に近づかないと話せなくなった。いつも、おばあちゃんと話すとき、何度も聞き返してくるのでいやだったけど、自分が高齢者になってみると、同じことをしていた。なので、おばあちゃんの気持ちなどがよく分かった。

自分が高齢者になってみて、高齢者の行動や言葉などがよく分かった。おばあさんが歩いているのを見たら、すごくゆっくりで、ぎこちない歩き方をしていた。体験をするまでは、それがいやだった。自分がやってみるとこしは曲がって歩きにくいし、ひざが曲げにくいし、体が重くて一歩を出すのもしんどかった。だから、おばあさんの歩き方は理解できた。よくお年寄りの人が何かをするときに、「よっこらせ」や「よいしょ」などを言っている。私がお年寄りになってみて立つときなど、そんな言葉を口に出していた。

今まで私は、おばあちゃんなどにあまり優しくなかった。でも、この体験をやって、優しくしようと思った。すごくいい経験になった。